



目次

説教	アブラハムに与えられた神の祝福	……	金	東佑	……	1
大信仰問答	CATS・愛⑦					
	エッセイ「第1章 聖書」	……	植田	恵	……	2
	新約聖書に聴く「主の祈り」(1)	……	後藤	憲正	……	3
	教会、この地とともに④⑤ 南浦和教会					
	御言葉が正しく、大胆に	……	藤井	和弘	……	4
	スコットランドでの日々 その3					
	燃え尽きない柴の国より	……	小林	宏和	……	5
	コロナの現場⑬ 障害者福祉施設の現場から	……	青木	謙	……	6
	コロナ禍の中で⑳ 権利を主張する責任	……	青木	豊	……	6
	次世代へのメッセージ①					
	力ある説教のために、不断の努力を	……	秦	利器	……	7
	教会ニュース	……				8



アブラハムに与えられた神の祝福

（創世記24章1節）

キム ドン ウ
金 東 佑

神の民アブラハムは何事においても神の祝福のもとで生きていました。「アブラハムは多くの日を重ね老人になり、主は何事においてもアブラハムに祝福をお与えになっていた」（創24:1）。創世記12章でアブラハムを呼び出された神は彼に約束されました。「わたしはあなたを大いなる国民にし／あなたを祝福し、あなたの名を高める／祝福の源となるように」（12章2節）。しかし、アブラハムは祝福どころか、数多くの信仰の失敗と苦しみの中で暮らしました。妻を2度も捨て、相続人にしようとしていた甥と別れ、側女の故に家庭の問題が起こり、約束の子供の兆しは中々見えないなど、幸せよりは数多くの問題があるように見えました。

こんな経験を経てきたアブラハムは本当に祝福された人だったのでしょうか。祝福ではなく苦難の人生ではなかったのでしょうか。しかし、聖書は明らかに彼が祝福された人だったと証言しています。果たして神の祝福とは何でしょうか。まず、聖書が語る「祝福」という概念を確実に理解していきたいと思っています。もともと、「祝福する」を意味するヘブライ原文の「バラク」には「彼が跪く」という基本的な意味があります。それが文法的な変化を経て「祝福する」という意味になるのです。この観点から考えてみると、祝福とは「何かをいただく」というより、「誰かに跪く」という意味の方に近いものではないのでしょうか。神がアブラハムにくださった祝福とは、「経済的な豊かさ、子供の出世、無病長寿」などの漠然とした世俗的な幸せを意味するものではありませんでした。アブラハムの祝福は、彼が真の神に出会い、その御前に跪き、主に従って生きるようにな

ることでした。

ここで跪くということは惨めに屈服するという意味ではありません。人が自分の存在理由に気づき、創り主の御前に立つこと。つまり、自分の在り方を悟ることなのです。アブラハムは信仰の失敗と苦しみの中で暮らしていましたが、神は一度もアブラハムをお離れになりませんでした。神は、時には、何もお答えになりませんでした。その時でさえも変わることなく彼の人生の中におられたのです。アブラハムは紆余曲折の歳月の中でも、変わらず神と共に歩み、神がくださった信仰によって数多くの苦難と逆境を乗り越えました。アブラハムの人生は、神の無い自己中心的な生き方から、神に跪き、神と同道する神中心的な生き方に変わっていきました。

聖書が語る祝福とは、まさにそういうことだと思います。民が神に跪き、御心に従って生きることです。私たちの求めるべき祝福は創り主であり、救い主である主なる神を知り、共に生きることなのです。喜怒哀楽の中でも変わることなく、主と共に歩むところこそが祝福の真の意味なのです。その時はじめて、主は霊的な祝福と共に肉体的な祝福をも与えてくださるでしょう。我々がイエスを信じて生きるということは、神に跪いて生きるという意味です。自分の考えや基準ではなく、御言葉を通して教えていただく神の御旨と基準に自分のことを合わせることです。そこから神の祝福は始まるのです。三位一体なる神に謙虚に跪き、主の御旨に適う人生を追い求めること、それこそが我々に与えられるべき真の祝福ではないのでしょうか。

（志免教会牧師）